

あかつか

新潟市立赤塚小学校 学校だより
令和5年度 第2号
発行日 2023年5月29日
TEL 025-239-2019 FAX 025-239-3803

青空ミーティング

校長 南伸裕

本来ならここに、先週実施した運動会のことを書くべきところですが、その話をする前に、GW後の子どもたちの様子をお伝えしたいと思います。

実は泣きそうになりました。いや、思わず涙がポロっと出てしまった話です。

GWの後、子どもたちは新しい学年に慣れてきたことと、家でゆっくりと自分の時間がもてたことなどからなのでしょうか、少し緊張が緩み、全校のあちこちで、悪口を言う、乱暴な言葉が飛び交うという状況が見られました。と同時に、学校に来るのがつらい、家にいたいというお子さんも数名みられるようになりました。これまでならば、それぞれの事案について、担任から個々に対応していたのですが、同じようなケースが多いこと、子どもの中で起きている問題については、先ずは子どもの中で考える。そして教師の指導の下で、それぞれがきちっと自分の力で解決できる力を身に付けるというねらいのもと、今年度から実施している青空ミーティング（昼休み後、全校縦割り班活動の一環として、清掃を行っています。清掃活動の他にも、縦割り班ごとで話し合い活動を行うことにしました。縦割り班で行う行事の計画から日頃の悩み事まであれこれ話し合うという取組です）を行うことにしました。

今回の話し合いのねらいは、悪口を言って人を傷つけたり、暴言によって悩んでしまったりする子どもたちが多くなっていることについて、解決の方法を考えるというものです。

子どもたちは、それぞれの班に分かれて話し合いを始めました。その話し合いのスタイルは、リーダーによってまちまちです。私は、その中の一つの班に目が釘付けになりました。

その班のリーダーの6年生の女の子は、所属する子を一人一人個別に廊下に呼んで、悩みを聞いていました。おそらく、班全体で悩みを話させると、ためらいが生まれる。ちゃんと心の内を話せないのではないかという思いから、そのような形で進めていたのでしょう。リーダーは一人一人、下学年にしっかりと寄り添いながら話を聞いていました。その流れの中で、中学年の女の子の番になった時、その子は思いを語るうちに泣き出してしまいました。それでも、必死に思いを語ろうとしている子に対して、6年生の子は、女の子の背中をさすりながら聞いています。そして、いつしか片膝をつき、目を相手の高さに合わせて、さらに身体を引き寄せながら「大丈夫 大丈夫」と優しく背中を撫

でています。そこまでの話の聞き方は、恥ずかしながら、なかなか教師もできません。

私は、その様子を見ながら少し心配になって、近寄って行ったのですが、6年生は私を見て「大丈夫」と、うなづき、手で私を制しながら、自分一人でなんとかするという気持ちを伝えてくれました（ここでも、「お〜っ」と思いました）。

彼女は、しばらく丁寧な聞き取りと励ましを続け、その後、泣いていたお子さんも安心した表情を見せ、そのお子さんの聞き取りを終えました。

私は、ここで見た姿をどうとらえたらよいのかを考えました。その姿は、おそらく、6年生の子がこれまでお家の方や先生方からされてきたことを反映した姿なのでしょう。いや、それ以上のものをこの6年生の対応から感じます。優しく目を合わせると同時に、その子の呼吸に合わせてながら背をさすり続け話を聞く姿は、悩みを訴える子の身体に、まるで自分を重ね合わせているように見えるのです。また、女の子の訴える思いについて、6年生はこれまでの経験からアドバイスしたことと思いますが、何よりも、相手にしっかりと向き合い、親身になって聞いてあげたことが、安心させることにつながったのではないかと思います。私は、このことを通して、子どもの日々の問題について、その場で起こったことの白黒をつけて解決することも大切ですが、じっくりと、子どもの身になって聞くことの大切さも再認識しました。

以上、ここに1つの子どもの姿を紹介しました。けれど、この姿、このような思いをもっているお子さんは、紹介した6年生の女の子1人ではないはずです。きっと多くの6年生、5年生、そして、それに続く学年の子どもたちも持っているものであるはずです。ちなみに、青空ミーティングの後、全校の子どもたちは晴れ晴れとした表情をしているものが多かったです。

ということを振り返りながら、先週の運動会を思い返してみると、全校鬼ごっこの場面でも、下学年の子をつかまえるギリギリのところで見られた優しいタッチが思い出されます（つかまえるという目的を大切にしつつ、下学年にもやさしくするという2つのよさを見せていました）。

今年度、縦割り班活動（青空ミーティング等）を活用し、もっともっと優しく、相手の気持ちを察する子どもたちを育てていきたいと思えます。



青空ミーティング等活動のたびに
1年生を迎えに行く6年生